

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

“社内交流”が疎遠になる背景と対処法

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【社内行事に経費を使うメリットなし？】

忘年会であれ社員旅行であれ、社内行事が“従来のようには受け入れられない”という声が、あちこちで聞かれます。

従業員に受け入れられないなら、もはや、社内行事として経費を使うメリットがないという見解も、増えて来ているようです。

【業務上不可欠な“集まり”でも…】

しかも、この“社内活動軽視”の風潮は、忘年会や社員旅行ばかりではなく、朝礼や会議にも“影響”を与えているケースがあるようです。積極的に参加する姿勢がないばかりではなく、参加した後、“ネガティブ”な雰囲気周囲に“まき散らす”人が出てしまうわけです。

【プライベートでも社内交流は薄くなった】

更には、プライベートでも、社内の人との交流を嫌い、たとえば“飲み会”にも参加しないし、参加しても“一言も話さない”ケースも報告されています。

もちろん、時間外で交流する義務はありませんが、組織の“士気”が気になるどころです。

【求められているのは“実のある”交流？】

こうした“傾向”の中で、社内交流を敬遠するのは、交流自体を嫌うからではなく、実は“もっと意味のある交流を求めている”からではないかと、指摘する経営者もおられます。

そして、交流の敬遠を放置すると、必要な業務上の情報伝達も、疎かにし始める懸念があるため、“意味のある交流”を考える重要性は、昨今、益々増大していると言うのです。

【“社内交流”で成果を出すためには…】

では、“社内交流”を意味あるものにするポイントは、“どこ”にあるのでしょうか。

そして“意味のある交流”とは、どのようなもので、それは“どうすれば”実現し、“どんな効果”があるのでしょうか。

【マネジメント・レポートを差上げます！】

そこで、このテーマに関する、ある経営者の“実体験”と“気付き”の事例を、マネジメント・レポートとしてご用意致しました。

定期購読者には、そのレポートを差上げますので、ご一報ください。



社内交流のために行う“行事”が、逆に社内交流を妨げることがあるとしたら、それは大問題だと言えます。しかし、交流を妨げないとしても“効果が出ない”なら、それだけでも問題でしょう。

ただ、なぜ社内行事が従業員に“敬遠”されてしまうのでしょうか。そして、なぜ“業務上必要”な交流やコミュニケーションが、思うように進まないのでしょうか。

ある経営者の苦闘と、問題解決への気付きを追ってみました。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>